

狭山の元気 発見



家族で話し合ってください 交通事故をなくすために

「車を運転している
と、道いっぱいには広が
って下校している小学
生を見かけることがあ
ります。徐行すると、車
の前に両手を広げて立
ちはだかる子がいるん
です。そんなときは車か
ら降りて、その子の行動
が、いかに危険なこと
なのか懇々と説くんで
す。でもそれは、本当は親が教
えなくてはならないことなの
です」と厳しい口調で話す、富
士見在住の上野初榮さん。狭
山市交通安全母の会連合会会
長、そして埼玉県交通安全母
の会連合会の理事として、交
通安全は家庭から」をスロー
ガンに、会員の先頭に立ち交通
安全活動に取り組んでいます。

交通事故の原因の多くは自
動車側にあります。中には
遊びに夢中になり道路に飛び
出したり、自転車で一時的停止
しなかったために事故に遭っ
てしまう子どもなど、自転車
や歩行者としてのルールが守
られていないために起きてし
まうこともあります。そんな事
故を防ぐために、日ごろから
親が子どもに交通安全につい
て話してあげることが大切で
す。もし万が一、事故に遭っ
てしまったら、みんなが悲しむ
ことになります。だからどしど
し事故に遭わないか、ぜひ
家族で話してください。交通
事故の恐ろしさや交通ルール
を守るこの大切さを子ども
にきちんと伝えるのが親の大
きな役割」と上野さん。そのた
めに、交通安全教室や登下校
時の旗振り指導の際など、機
会があるたび保護者に「子ど
も目線で通学路を
歩いてみてください」と
と伝えていきます。特
に5月ごろになると、
最初は緊張していた
新入学児が学校に慣
れてきて気が緩むの
で一番危険なのです。



上野さんは、活動
してきた十数年間を
「先輩から受け継い
だ、子どもを守る気
持ち」をみんなに伝
えるのが私の役目。私がこう
して活動できるのも、地区の
お母さんや地域の皆さん、そ
して家族が協力してくれるか
ら」と振り返ります。そし
て、みんなの、交通事故を防ぎ
たい」という熱い気持ちで運
転する人たちに伝われば、子
どもはもちろん高齢者も守れ
ることになる...と信じ、もっ
ともっと頑張らなくてはなら
ないと考えています。

上野初榮さん

(狭山市交通安全母の会連合会会長)

多くの人と関わることができ、幸せです
みんなからもらうエネルギーが
毎日の活動の原動力になるんです

オピニオン

皆さんの「声」をお寄せください。

市民が創る地域協育社会の実現に向けて

3月26日、市政モニターが市長、教育長と懇談し、1年間の活動報告と、狭山市が目指す生涯学習社会に関する「こと」などの提言を発表しました。そして「こと」を考えていることなど生の声を伝えました。今回はその一部をご紹介します。

私たち市民がさまざまな機会をとらえて生涯学習を自主的に進めてきた中で考えることは、子どもも達とふれあい、一緒に学ぶことができる環境をつくれなにかということと、とかく閉鎖的に映る学校での学習の中に、私たち市民がこれまで培ってきた知識や技術を「地域の教育力」として生かせる場づくりが必要だと思っております。能力を個人に留める

のではなく、手と手をつなぎ、人が結集できる仕組みづくりが重要です。それを実現することによって、学校と地域



市政モニターの皆さんが市長と前・教育長に提言しました

が連携することにつながるのではないのでしょうか。

子どもは地域の社会環境を映し出す鏡であり、大人の意識や行動は子ども達の成長に大きく影響します。そのため、学校内での課題にも地域が支えとなって取り組む必要があると考えます。建設的な市民が、市政に対して積極的に関わりつづける姿勢があることを十分理解していただき、市民の力を信じて、後世への教育の一部を託して欲しいと願っています。

教育委員会の考え方

「提案のように、学校施設を開放し、市民と児童生徒が共に学ぶ事例は他市にもあり、市でも人間川小学校をそのモデル校として整備しています。また、形態は異なりますが山王小や狭山台北小などでも実施しています。さらに、近年では学校側の現状も変化しており、より密な教育を目指して少人数教学級の導入や習熟度別授業の実施、地域ボランティア講師の活用など多様な学習形態をとっています。今後はいただいた提案を生かしながら、地域のニーズを十分把握して、市民皆さんの教育力の活用を検討していきたいと考えます。」

好きな言葉 大丈夫
私を安心させてくれるから

A ssistant L anguage T eacher



El-Branden Brazil
エル・ブランドン・ブラジル
(人間川中学校勤務)

イギリス出身
平成12年から狭山市のALTとして勤務
昨年は、日本の映画俳優のボイストレーナーもつとめました

At last, spring has returned and banished the cold of winter. Some people adore the winter, with its options for skiing and snowboarding. Yet, for myself there is no pleasure to be found in those dark, chilly winter months. If I had a choice, I would prefer to hibernate and sleep through it, like many animals do. It is with great joy and relief to behold spring's return. Spring is a glorious season when life comes pushing back. The trees begin to sprout foliage and beautiful cherry blossoms break out across the landscape, signaling a time for parties and celebration. My favourite season is summer. To the surprise of my Japanese friends, I adore summers in Tokyo. The humidity and the sound of cicadas remind me that I am in an exotic country, with a climate very different from my own country of England.

寒い冬を追い払うように、春がやってきました。スキーやスノーボードができるから、冬が大好きな人もいます。私には、暗く冷え冷えする冬には、楽しいことは何もありません。できるなら冬眠していたい気分です。春の訪れは、大きな喜びとともに心が開放されます。木々は芽生え桜の花が咲き、お祝いのときが来たことを知らせます。私は夏が好きです。友だちは驚きますが東京の夏が好きです。湿度とセミの鳴き声が、イギリスとはまったく違った気候である異国に住んでいることを思い出させてくれます。

<エル・ブランドン・ブラジル>(英文の要約)